

# 担い手通信

J A バンクは地域の担い手を応援します



今月の話題

## トマトCO<sub>2</sub>施用

**投資額に合わせ3タイプ**

重県農業研究所が作成した「トマト栽培のための  
CO<sub>2</sub>施用マニュアル」が好評です。二酸化炭素  
(CO<sub>2</sub>) 施用の効果が農家に知られるようになつたこと  
もあり、全国から多くの問い合わせがあるといいます。初  
期投資額の違いで、施用方法や装備する機器を分けて紹  
介するなど「幅広い農家に利用できるようにしたことが  
受けたのでは」と同研究所ではみています。

マニユアルは、2017年  
夏に農水省事業で研究して  
きた成果をまとめました。

給源になつてゐることなど実態を説明しています。それを基に具体的な施用法と事例を紹介します。

施用法は「お手軽タイプ」「標準タイプ」「こだわりタイプ」の三つの類型に分けて説



「は20ルアーフから1ダブル規模で初期投資額は45万～1000万円。温度や天窓などとも連動させます。

施設内を外気のCO<sub>2</sub>濃度と同じ程度にする「ゼロ濃度差施用」の考え方も紹介します。

マニユアルはA4判で30ページ（表紙を除く）。印刷の許可申請をメールで申し込めば、マニユアルのデータが送られます。「特に宣伝はしていない」（同研究所）が、県外からの問い合わせも多く、予想以上の

今が旬  
この言葉

農福連携

農業と福祉双方の課題を解決し、利益をもたらす農福連携は、農産物の生産現場に障害のある人たちを働き手として受け入れ、自立を支援する取り組みとして注目されています。高齢化や過疎化などで働き手の確保が課題の農業分野では、JAが農家と働き手を結ぶ事業を始めるケースなど、障害者の活躍の場をJAがつくる事例も増えています。

申し込みがあつたといいます。  
3月末までの申し込み分  
は、施設園芸に取り組む農  
業法人や、企業などを含め  
129件。合計で790部  
の印刷申請がありました。今  
も同研究所ホームページ  
(HP)で申し込みを受け付  
けています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

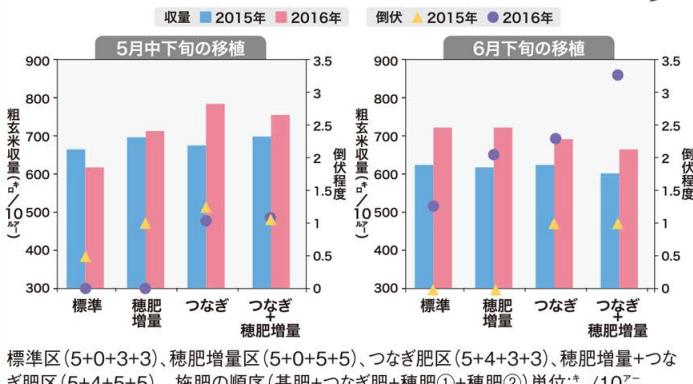
重県農業研究所は、飼料用米の知事特認品種である「あきだわら」の倒伏を防ぎ、収量を増やす栽培方法を発表しました。ポイントは5月中下旬に移植を行い、穂肥の量を増やすこととしています。窒素施肥を基肥(5キロ/10坪)、穂肥2回(3+3キロ/10坪)を標準区とし、5月中下旬と6月下旬移植の2つの期間で①穂肥増量区②つなぎ肥区③穗肥増量+つなぎ肥区――

的防除が大切だとしています。枯病の発生を防ぐため、予防

病が助長される、いもち病や紋病が助長され、さらには多肥栽培で発現のためには多肥栽培で発

いたしました。さらに同研究所では多収の実現のために、肥料の順序(基肥+つなぎ肥+穂肥①+穂肥②)を標準化しました。5センチほどの新芽と茶葉を摘み取る「一芯二葉」で収穫する光景は、この時期の風物詩だ。同地区で生産される「越賀茶」は、程よい渋味と甘味が特徴で県内外からのリピーターも多く、ほとんどが予約販売に回る。3月に入り晴れた日が多くなり、平年より平均気温が高く、日照時間も多了したことから生育は順調に進んだ。初摘みは昨年より10日早い。

### 移植時期・施肥方法の違いが「あきだわら」の粗玄米収量・倒伏に与える影響



お問い合わせ先

三重県農業研究所 農産研究課 ☎ 0598-42-6359

# 農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度と  
当JA金利引き下げ2年間措置の対象となります。

利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

《お借入金利》  
変動金利年1%

《JAバンク利子補給・  
金利引き下げ》  
年0.8%

= 実質  
**年0.2%**  
5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>  
平成30年4月現在

※JAバンク利子補給・  
当JA金利引き下げ後の  
ご負担金利は0.2%を下  
回らないように調整され  
ます。

※イメージは実際とは異  
なる場合がございます。  
詳しくはお近くのJAバン  
クまでお問い合わせください。

※JAバンク保証料助成  
により、実質保証料が0  
円となります。



## 県内NEWS

(日本農業新聞より)

### JA一志東部

#### 広報誌で広げる おむすびの輪 レシピ紹介コーナー新設

JA一志東部はコミュニティ誌「かがやき」で新たに「お結びリレー」の連載を始めた。JA女性部員が毎月、地元産の米と旬の農作物を使ったおむすびのレシピを紹介するコーナーで、米の消費拡大が目的だ。1回目は「三重なばな」と梅干しを細かく刻み、ちりめんじこと混ぜ合わせ、仕上げに桜の塩漬けをあしらった春らしいおむすびを紹介した。誌面を見た読者からは「最近は、お米を食べない日もあったけど、おむすびを作ってみたくなった」と好評だ。

(2018/3/7 ワイド1東海)

### JA松阪

#### モロヘイヤ播種 県産の8割生産

JA松阪は4月上旬、松阪市のJA伊勢寺ナーセリーで2018年度産モロヘイヤの播種(はしゅ)を行った。200穴のセルトレーラー120枚分を播種した。モロヘイヤ栽培は92年から行っており、現在は三重県産モロヘイヤの約8割の生産量をJAが担っている。JA営農指導員が定植時期に合わせ、3月から5月にかけて播種をし、生産者へ配布するまでの1ヵ月間、温度や湿度の管理を行い、良質な苗に仕上げていく。3月播種分は4月上旬に各農家へ配布し、定植が始まっている。

(2018/4/11 ワイド2東海)

### JA鳥羽志摩

#### 「一芯二葉」で「越賀茶」始動

JA鳥羽志摩管内の志摩市志摩町越賀地区で4月中旬、露地栽培では県内で最も早く、茶摘みが始まった。同地区はほとんどが手摘み収穫。5センチほどの新芽と茶葉を摘み取る「一芯二葉」で収穫する光景は、この時期の風物詩だ。同地区で生産される「越賀茶」は、程よい渋味と甘味が特徴で県内外からのリピーターも多く、ほとんどが予約販売に回る。3月に入り晴れた日が多くなり、平年より平均気温が高く、日照時間も多了ことから生育は順調に進んだ。初摘みは昨年より10日早い。

(2018/4/11 ワイド1東海)



農業を営むすべての方に

0  
円  
実質  
保証料

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度と  
当JA金利引き下げ2年間措置の対象となります。

利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

《お借入金利》  
変動金利年1%

《JAバンク利子補給・  
金利引き下げ》  
年0.8%

= 実質  
**年0.2%**  
5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>  
平成30年4月現在

